

第 12 回 技術戦略専門委員会における 「報告書 2008（骨子案）」に関する意見に基づく事務局メモ

【構成と方針について】

- ・技術「戦略」専門委員会なので、「戦略」を示すことが重要。
- ・日本として、何を強化・重点化するか、どのように勝っていくかの戦略を示すべき。
例えば、「情報家電のような、強いところを、より強くしていく」という意思と、それをどう実現するかの方策とが、戦略。
- ・今後の社会の動向（少子・高齢化、労働力の減少、世界的な資源の枯渇など）や要請（環境問題への対応など）を IT や先進技術で解決するシナリオを書き、そこで生じうる問題を（セキュリティのみならず）考えて、それを解くというアプローチが有効。
- ・2 章に、本報告書の前提となる「予測」を先ず書くべき。
- ・「報告書 2008」に記載される「予測」の粒度や項目には、色々なものがあってよい。例えば、将来シナリオ、技術潮流、戦略、定量的な予測・目標（例：「どんなウイルスが出現しても、24 時間以内に無効化できる」など）。

【個別の研究開発テーマについて】

- ・それほど将来でなくとも、目先の問題（例：個人情報保護法によって、介護保険と健康保険のサービスは、それぞれの間で患者の情報などを共有できない。病院の IT 化は進んでいるが、それを支える病院内の電力や通信などの設備の信頼度は上がっていない。）があり、それを解決していくことから始める必要がある。
- ・セキュリティの効率化は、例えば構造的なアプローチ（例：製品開発の工程や項目を分類し、それぞれのケースでセキュリティを担保するためのノウハウやチェックポイントなどを共有することで、網羅的なセキュリティ対策を効果的に実現）、あるいは重複の排除（ファイヤーウォールが多重に置かれた場合、同じチェックを 2 回以上行なわない、など）などが有効だろう

以上